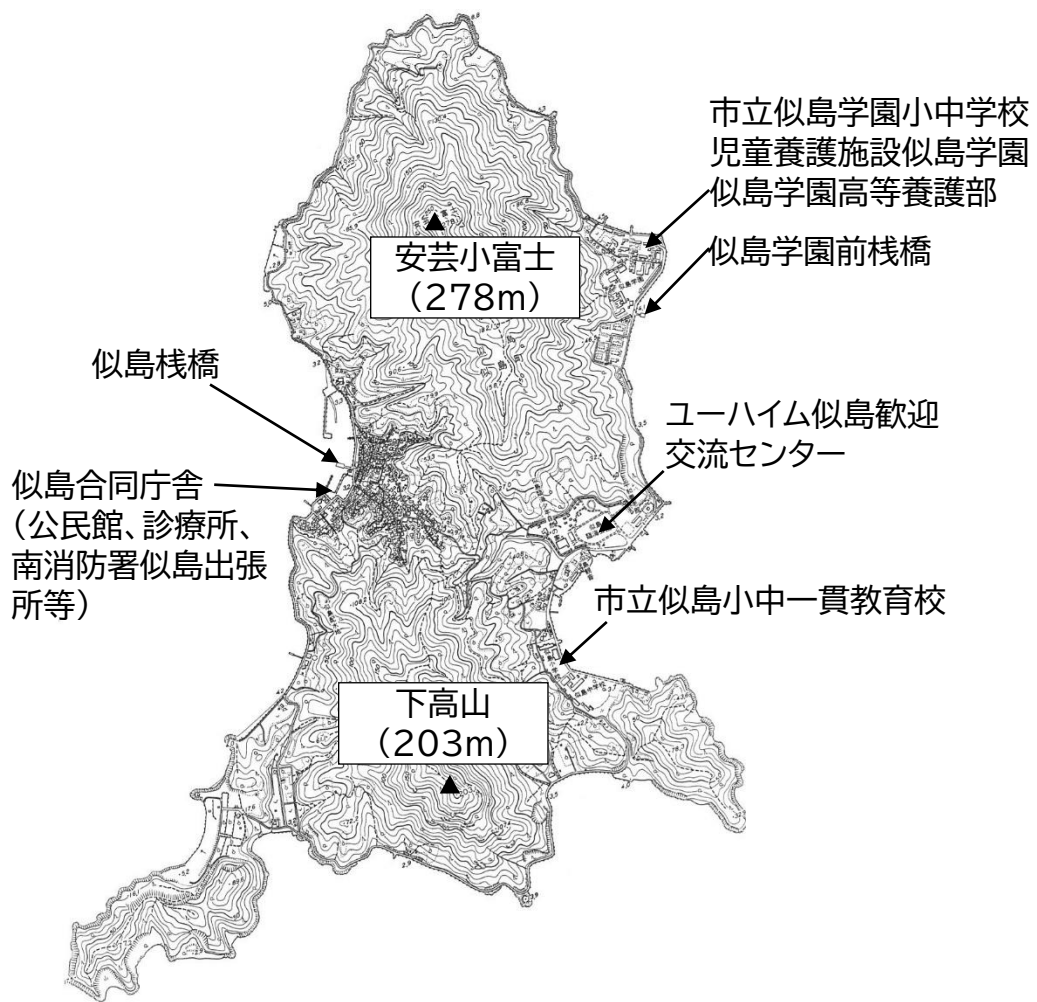


似島の現状について

似島航路改善協議会

1 似島の地勢

- 似島は、広島港(広島港栈橋)から南へ約3kmに位置する面積約3.8km²、周囲約16kmの広島湾内の小島である。
- 似島の施設は、東西に分かれて位置しており、西側には住民の集落や公的機関等が集積し、東側には、似島小中一貫教育校や似島学園小中学校のほか、ユーハイム似島歓迎交流センター等が位置している。



2 似島のインフラ等

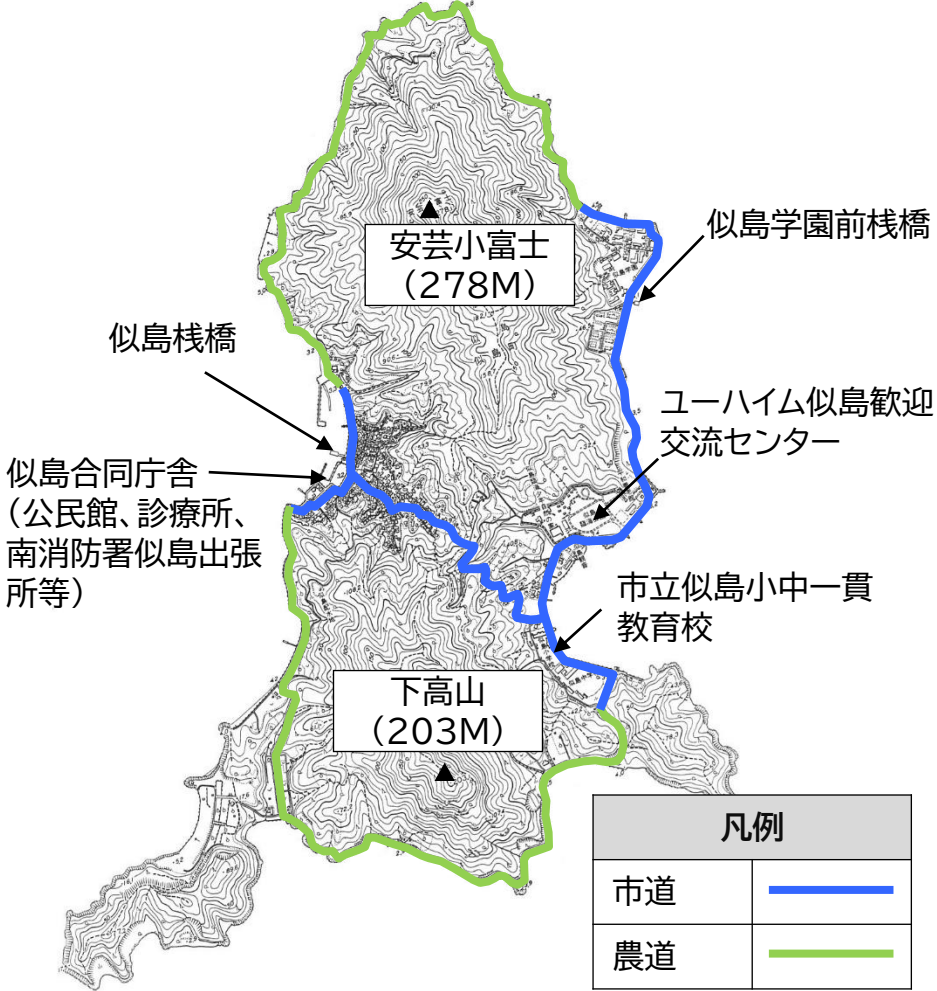
- 似島における水道や電力は、本土から供給されている。
- 下水道やごみ処理施設は整備されていないため、フェリーを介して、本土と連携し処理を行っている。

項 目	内 容
水道設備	・本土から直接給水
下水道設備	・未整備(浄化槽又は汲み取り)
電力	・本土から直接供給
通信	・テレビ・ラジオの難視聴地域はない ・携帯電話サービスも利用可能区域
ごみ処理	・委託により定期収集し本土に搬送して処理
病院	・診療所(内科・形成外科(週6日)、歯科(週2日))＜合同庁舎内＞
郵便局	・広島似島郵便局＜似島栈橋付近＞
消防	・広島市南消防署似島出張所＜合同庁舎内＞
警察	・警察署・交番は島内になし
学校教育施設	・広島市立似島小中一貫教育校、広島市立似島学園小中学校 ・高等学校、大学は島内になし
児童福祉施設	・似島保育園＜似島栈橋付近＞ ・児童養護施設似島学園＜似島学園前栈橋付近＞ ・似島学園高等養護部＜似島学園前栈橋付近＞

※ 広島県離島振興計画(令和5年5月)等より作成

3-1 似島の交通(概要)

- これまで、市営棧橋と似島学園前棧橋を往復する航路があったが、令和7年2月末に航路廃止され、似島汽船株式会社の運航するフェリーが本土との唯一の連絡手段となっている。
- 島内において、路線バスやタクシー等の公共交通がないため、自家用車や自転車などに依存している。
- 島内の主要道路は南回り道路、北回り道路、横断道路の3路線に大別され、北回り道路と横断道路は狹隘で車のすれ違いが難しい箇所があるため、車での往来の多くは、南回り道路が利用されている。



3-2 似島の交通(棧橋)

- 似島を発着する航路は、全て公有の棧橋を利用しており、各々がトイレやベンチ付の待合所を有している。
- 一方で、似島航路の券売機は本土側の広島港棧橋のみに設置してある。

棧橋名		広島港棧橋 (広島港第4棧橋)	似島棧橋	似島学園前棧橋
	管理者	広島県(港湾管理者)	広島県(港湾管理者)	広島県(港湾管理者)
	種別	浮棧橋	浮棧橋	浮棧橋
	延長	140m	95m	75m
待合所名		広島港宇品旅客ターミナル	似島棧橋待合所	似島学園前待合所
	管理者	広島県(港湾管理者)	広島県(港湾管理者)	広島県(港湾管理者)
	利便施設	駐車場110台(有料) (広島みなと公園内にも 有料駐車場、無料駐輪場あり)	駐輪場32台(無料)	なし
	トイレ	あり	あり	あり
	売店	あり	なし (周辺に自動販売機等あり)	なし
	ベンチ	あり	あり	あり
	券売機	あり	なし	なし

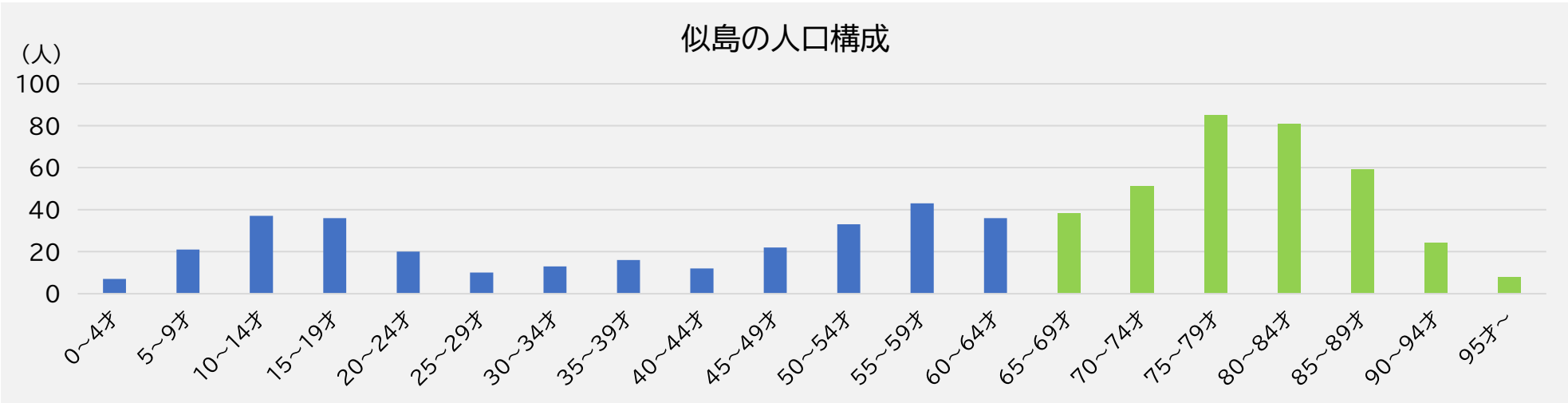
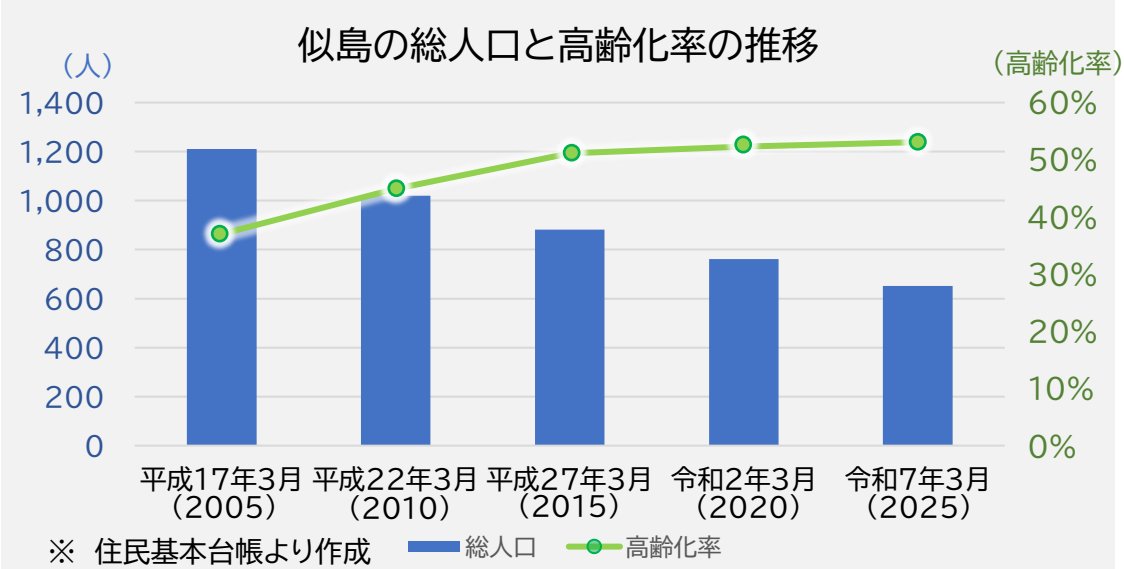
※ 棧橋及び待合所について、広島市が広島県から管理を受託している。
※ 広島港の港湾台帳等より作成

4 似島の人口

- 似島の人口は減少が続き、令和7年3月末の人口は約650人となっており、平成17年と比較して約半数となっている。
- また、高齢化率は上昇傾向であり、令和7年3月末では50%を超えている。

【令和7年3月末時点(住民基本台帳)】

- 人口:652人
- 人口減少率(対H17人口):約46%減
- 世帯数:444世帯
- 高齢化率:53.1%
- 人口構成:下図のとおり



※ 住民基本台帳(令和7年3月)より作成

5 似島の歴史と文化

○ 太平洋戦争以前において、似島は検疫所や捕虜収容所等が設けられており、島内には戦争遺構が残存している。

・戦争

明治時代から第二次世界大戦に至る長期にわたり、検疫所や捕虜収容所、弾薬庫等の軍の施設が多く設けられており、現在でも碑や遺構が多く残っている。

令和3年4月には、広島市立似島小中一貫教育校南側の「慰霊の広場」に「似島平和資料館」が設置され、館内には軍都広島を支えた似島の歴史に関する資料や写真、遺品等が展示されている。

・原爆投下

原爆投下から臨時野戦病院と化した似島検疫所が閉鎖されるまでの間で1万人あまりが運び込まれそのほとんどが死亡し、火葬が間に合わなくなった後は穴を掘り直接遺体を土葬したと伝わっている。戦後、遺骨や遺品が大量に発掘されており、多くの遺骨が収集された場所に慰霊碑が建立された。毎年8月初旬、似島の慰霊碑の前で平和式典が開催されている。

・バウムクーヘン

似島俘虜収容所に収容されていたカール・ユーハイムが大正8年に焼いたものが、日本で初めて作られたバウムクーヘンと言われている。ユーハイム似島歓迎交流センター等でバウムクーヘン焼き体験が実施されている。

※ 「似島の口伝と史実(似島連合町内会・似島郷土史編纂委員会)」等より作成



図1 島内に残る戦争遺構



図2 似島平和資料館



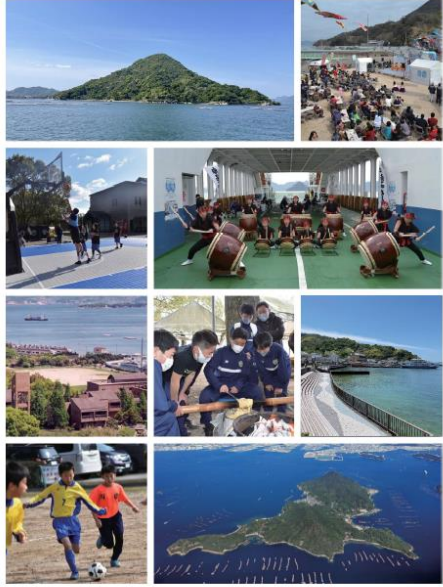
図3 バウムクーヘン焼き体験

6 似島のまちづくり

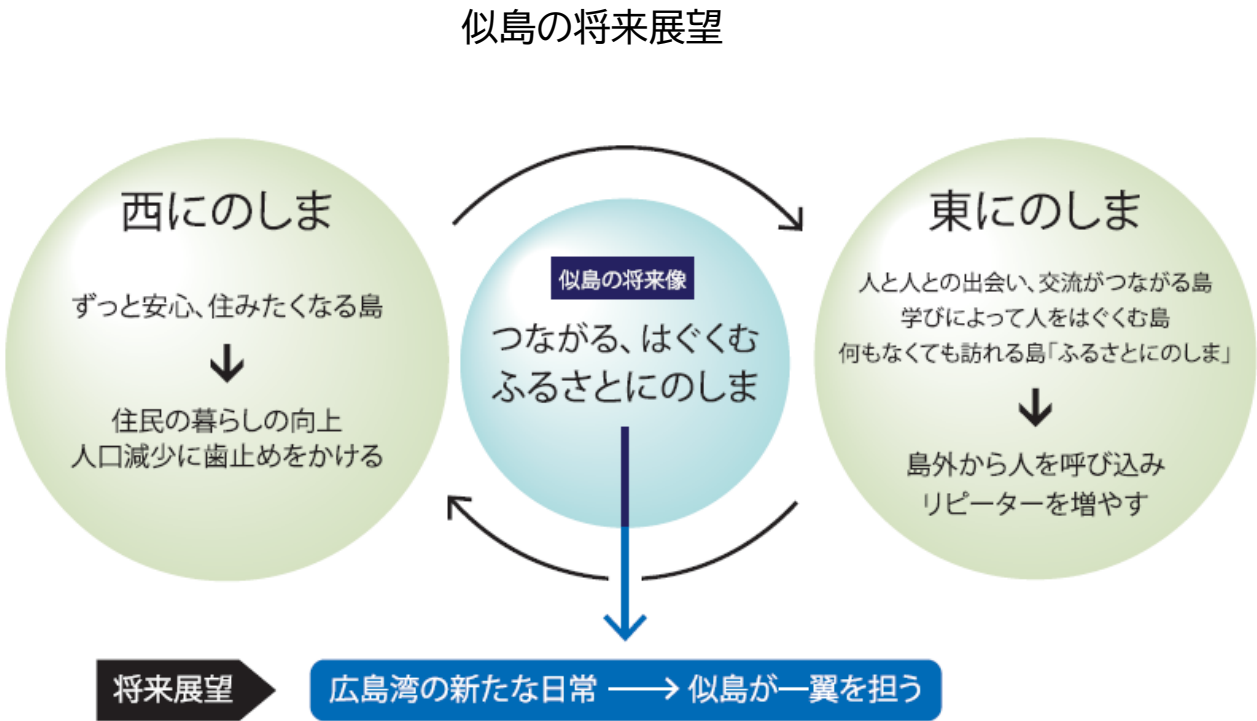
- 令和4年3月に似島住民の有志が主体となり、似島の将来像を盛り込んだ「似島地域活性化ビジョン」が取りまとめられた。
- このビジョンは、本土にもまして人口減少・少子高齢化が進展している似島において、日常生活機能の弱体化や地域活力の低下という現状を打破し、似島のみならず本土を含めた広島湾全体の活性化を図っていこうとするもの。
- 令和6年4月には、このビジョンに掲げられた取組の一環として、ユーハイム似島歓迎交流センターがリニューアルオープンしている。

似島地域活性化ビジョン

つながる、はぐくむ、
ふるさとにのしま



にのしま まち座談会
令和4年3月



※ 似島地域活性化ビジョンより抜粋